

玉山と玉  
河玉の採取  
高と回部  
の貢進

石炭礦

るもの、其次を墨玉モイユイと稱し、黒色の外皮を有するもの、最下等品を碓子石ツァーズシと稱し、黒白色の混交したるものにて、採取何れも頗る盛大なり。回民は密爾岱山を指して玉山と呼び、全山皆瑩々たる各色の玉石を以て満たせり。土人其の嵯峨たる峯巒に攀援しつゝ、碓子石と稱する重量數千斤の玉石を鑿摧する有り。又昕雜テンチャ阿布河を玉河と稱し、其の水底より各種の寶石を産出す。

以上兩所に於ける採取額甚だ多く、毎年數萬斤に上ると云ふ。尙ほ哈密、吐魯番等の沙漠地には、瑪瑙、瀚海石等を産す。嘉應四年千七百九十九年以前は、人民の私採を禁したりしも、爾後此禁を解き土人の採取を許容せし以來、今日の如く發達するに至れりと。又回部より毎歲清廷に玉石を貢進する例規は、今に行はると云ふ。

石炭礦 有煙炭は勿論、無煙炭も共に豊富なり。殊に北路に多し。其の有名なるは、伊犁の綏定城東方一帶の山中、及烏魯木齊、故城の附近にして、其他北路到る處に之を出す。南路には比較的少なきが如きも、哈密、吐魯番間の山中、及庫爾勒の東北哈爾河滿山附近に産出せり。尙ほ其他を精査せば、炭礦の埋れたるもの少なからざるべし。